

令和 2年度（3年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	瀬戸内海圏の中核都市としてふさわしいまち	評価担当	局名	都市整備局
	政策	拠点性を発揮できる都市機能の充実		課(室)名	住宅・まちづくり推進室
	施策	中心市街地の活性化		電話番号	087-839-2136
	基本事業	タイムリーな情報発信による回遊促進		事業実施主体	市
	事務事業	中心市街地活性化推進事業（住宅・まちづくり推進室分）		事業期間	平成28年度～令和6年度

【事業全体概要】

**事業の概要**  
 本市を取り巻く環境の変化に伴い、中心市街地の人口減少や商店街の空き店舗増加など、にぎわい・活力の低下が見られた。にぎわいを戻すために、国の交付金等を活用するべく、平成19年5月に第1期高松市中心市街地活性化基本計画の国の認定を受けた。第1期計画の計画期間が平成25年3月で終了し、令和元年6月に第2期計画を策定し、平成25年6月に国の認定を受けた。第2期計画期間においても平成30年3月で終了したため、令和元年6月に第3期計画を策定し、平成25年6月に国の認定を受けた。計画に掲載された事業が中心市街地の活性化に向けた相乗効果をもたらすよう、事業の進捗を図り官民一体となって取り組んでいる。

**2年度概要**  
 第3期中心市街地活性化基本計画の変更、及びフォローアップ報告などに関する事務  
 歩行者通行量カメラ運用費  
 中心市街地活性化協議会に関する高松市負担金

重点取組事業	一般重点	市長マニフェスト	5-	事務事業の類型
--------	------	----------	----	---------

【事業の目的】

対象(何を)	中心市街地活性化基本計画の対象となる地区
意図(どのような状態にしたいか)	中心市街地活性化基本計画掲載事業を推進し、「中心市街地の来街魅力の強化」「タイムリーな情報発信による回遊促進」「豊かな居住環境の充実」を図り、中心市街地のにぎわいを取り戻す。

【事業の活動】

活動指標名(具体的にどのような活動をしたか)	単位	H29	H30	H31	R 2	中期目標 R 2
基本計画掲載事業のうち、完了又は実施中の事業	事業	40	40	37	48	48

【事業の成果】

成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	H29	H30	H31	R 2	中期目標 R 2
中央商店街の歩行者通行量	人	目標値	141,000	141,000	97,721	97,721	97,721
		実績値	118,567	128,854	134,083		
<b>成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか)</b> 平成31年度の歩行者通行量は、瀬戸内国際芸術祭2019の開催による観光客の増加や各商店街のイベント等の実施によるにぎわいの創出など活性化に向けた様々な事業が継続的に行われていたため、目標値を上回る結果となった。 (目標達成度)						(達成度) 137.2% 35点	
中央商店街の空き店舗率	%	目標値	14.9	14.9	14.9	14.9	14.9
		実績値	17.8	16.9	15.5		
<b>成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか)</b> 各商店街でイベント等の実施によるにぎわいの創出や空き店舗活用事業による店舗の出店誘致など、活性化に向けた様々な事業が行われ、改善は見られたが、平成31年度の空き店舗率は、目標値を下回る結果となった。 (目標達成度)						(達成度) 96.0% 33点	

【コストの推移】

指標名	単位	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	平成31年度(決算)	令和2年度(予算)
トータルコスト	[千円]	9,391	16,784	28,442	10,058
(事業費)	[千円]	287	5,441	21,537	4,443
(職員人件費)	[千円]	9,104	11,343	6,905	5,615

【評価】

評価ランク (A~D)	A	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	継続
-------------	---	---------------------------	----

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

中心市街地の人口減少や商店街の空き店舗増加など、本市を取り巻く環境の変化に対応し、中心市街地のにぎわいを創出するため、第3期高松市中心市街地活性化基本計画を策定し、令和元年6月に国の認定を受けた。本計画に掲載された事業の進捗を図ることや、課題ごとに担当者レベルでのワーキンググループを開催し、現状や解決策を話し合う場を設けるなど、中心市街地の活性化に取り組んだ。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入)

中心市街地活性化のために必要な事業であり、活性化に向けて引き続き実施するため、民間事業者等との情報共有や連携を図り、積極的な推進を行っていく。ワーキンググループを開催し、その中で、現状分析や課題の抽出を行い、官民一体となって商店街の活性化に向けて取り組んでいく。